

地球温暖化による 市内の生きもののの変化や影響

茅ヶ崎市では、30年くらい前から生きものに温暖化の影響がみられています。南方系種が北上してきて15年前くらいからかなり顕著にみられるようになってきました。

必ずしも地球温暖化が原因とは特定できませんが、温暖化が原因となっている可能性のあることとして2ページ目以降に「生きものの変化や生態への影響」を掲載しています。



イラスト出典:気候変動適応情報プラットフォーム

2023年3月
環境政策課

増える生きもの 蝶類

1999年に横浜市中区、鎌倉市、三浦市で成虫が記録され、2000年には三浦半島から湘南地域の広い範囲で成虫が記録され、茅ヶ崎市では卵・幼虫が確認される。現在、県内低地で普通に見られるようになった。

気温が高くなるにつれて、分布域を北に拡大しているという説があり、温暖化の影響を示す生きものとして注目されている。

1980年代前半までは神奈川県内における記録の非常に少ない種類であったが、1998年以降記録が急増し、2005年には県内低地域で普通に見られる種となる。

分布域は、すでに宮城県南部まで到達している。食草となるスミレ類が広く栽培されていることも、分布拡大の一因



ナガサキアゲハ



ツマグロヒョウモン

神奈川県下では、1980年代前半まで明らかな迷蝶だった。ところが、1990年に大磯町生沢でススキから卵と幼虫が確認され、県内で初めて発生が確認された。1995年までの間に県内各地で発生が確認された。

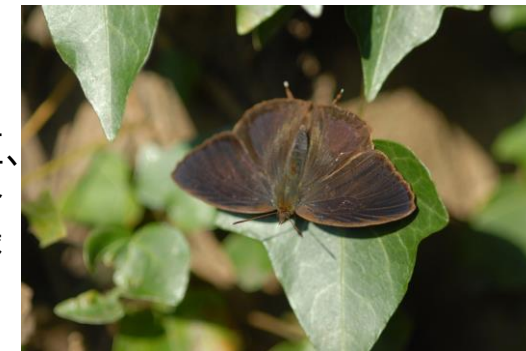
現在の北限は茨城県あたりか。分布拡大のスピードは、比較的ゆっくりである。

1996年に、県内初記録となる成虫1頭が藤沢市片瀬山で記録される。

2000年に横浜市戸塚区、三浦半島各地、湘南地域各地、小田原市で幼虫が記録され、発生が確認された。現在では、県内低地のほとんどの地域で記録が得られている。現在の北限は福島県海岸部。



クロコマノチョウ



ムラサキツバメ

増える生きもの 甲虫・トンボ

本種は、日本では沖縄本島以南の南西諸島、世界では中国南部、台湾、インドシナ、ミャンマー、インド等、熱帯～亜熱帯に分布している。

本州、四国、九州には近年侵入して、分布域を拡大している。サツマイモ、ノアサガオ等のヒルガオ科植物を食べる¹⁾。



図1) ヨツモンカメノコハムシ (成虫)

ヨツモンカメノコハムシ

日本最大級のテントウムシ。よく見かける「ナナホシテントウ」や「ナミテントウ」の倍くらいの大きさ。関西から西に生息していると言われていたが、2013年に神奈川県で記録され、その後関東各地でも見られるようになった。

温暖化による影響の可能性がある。



ハラグロオオテントウ

その名のとおり、腹部が細長いイトトンボである。

もともと南方系の種類で、湘南地域では2011年に記録が出始めた。近年、県内で急速に分布を拡大している²⁾。



ホソミイトトンボ

1)神奈川県農業技術センター「平成28年度病害虫発生予察特殊報(第4号)」

2)神奈川県藤沢土木事務所「茅ヶ崎里山公園の自然環境のあらまし」

増えるいきもの 植物

ラン科トラキチラン属のタシロランは、落葉などから養分をもらい根に菌類を共生させる腐生植物。葉緑素を持たないため、菌類を介し養分を吸収する。

1970年代まではとても珍しい種類であったが、湘南エリアや三浦エリアで急増し、各所で群生が見られる³⁾。



タシロラン

湘南エリアでは1990年代前半には全く記録がなが、1990年代後半に大磯で見つかったのを皮切りに湘南各地で発見されている⁴⁾。



キジョラン

もともと鹿児島県以南の日本や世界の熱帯地域などに分布していたが、急速に分布を拡大し、市内では小出川沿い、相模川河川敷で見られる⁵⁾。



シマユツクサ

3),4)神奈川県自然保護協会「神奈川県自然保護協会発行 ニュースレター No. 87」

5) 茅ヶ崎市「調べてきた！集めてきた！茅ヶ崎の植物と『神奈川県植物誌 2018』」

増える生きもの クマゼミ

南方系のセミで、かつては城ヶ島と大磯町を結ぶ線より南側に分布するとされていた。2000年頃から従来の分布域より東側・北側でまとまって発生する場所が増えている。

茅ヶ崎市の中央公園、浜見平、小田原市西酒匂、大磯町月京、藤沢市・辻堂海浜公園、横浜市泉区緑園・栄区、横須賀市不入斗町(いりやまず)一丁目・不入斗運動公園などでまとまった記録が得られている。

大磯丘陵や県西部の丘陵地のミカン畑でも発生しているが個体数は少なく、公園などの都市的環境で数多く発生し、そこを拠点にさらに分布を拡大している。

※2016年以降、茅ヶ崎市内各地、小田原市中里・鴨宮・久野、平塚市海岸部など、これまで生息が知られていなかった地域でもぬけがらが見つかり、分布範囲がより拡大していることが明らかとなった。

参考情報

茅ヶ崎市HP「中央公園には、クマゼミが5,000匹もいる!？」

茅ヶ崎市HP「クマゼミはなぜ増えているのでしょうか？」



クマゼミ

特徴

鳴き声は「シャーシャー」

背中側は真っ黒

種の生態にも影響が...



ヤマトシジミ



ヒメアカタテハ



ジョロウグモ

もともと発生していた種でも、暖かな期間が長くなり、発生の期間が長くなっている。

ヤマトシジミ、ヒメアカタテハは寒くなると成虫がいなくなっていたが、年を越して生き残るようになった。

ジョロウグモも秋に成体が見られ、以前は年内に死んでいたが、今は1月まで、長生きの個体は2月まで生きている。

まとめ

気候変動は、私たちの身近な生きものにも影響を及ぼし、生きものの分布域の拡大や縮小などの影響が生じることが指摘されている。